



イチゴ「うた乃」開発

3月から許諾受け付け 三重県

三重県農業研究所はイチゴの新品種「うた乃」を育成し、3月1日から生産許諾の申請を受け付けます。「うた乃」は、種子繁殖型品種で、11月下旬から収穫できる極早生。果実は赤色の円すい形で、そろいが良く、糖度が高く、独特の風味が特徴です。

イチゴの栽培は、親株からランナーを伸ばして増殖させる手法が主流です。ただ、育苗作業は生産者にとって大きな負担となります。親株の病気が子株に移るリスクや、増殖効率の低さも課

題。「うた乃」は、ランナーではなく、種子で増殖させます。そのため、増殖効率が高く、病気のリスクが低いメリットがあります。また、炭疽(たんそ)病抵抗性を持っています。萎黄病の抵抗性はありません。防除は、原則として栄養繁殖品種と同様の方法で行うとしています。

糖度は果実全体では平均で11。先端の糖度はピーク時に15まで上がります。硬さは「かおり野」や「よつぼし」とおおむね同じ。大きさは「よつぼし」と同等で、



研究所の圃場で栽培している「うた乃」

「かおり野」や「章姫」「紅ほっぺ」に比べると小さいです。

花芽の分化は9月15～20日。11月下旬から収穫が始められ、促成栽培に適した極早生品種だと位置付けます。

研究所野菜園芸研究課の小

堀純奈主査研究員は「品質の高いイチゴとして高単価を目指したい。県内の農業者に導入してほしい」と話します。

栽培は県内に限ります。生産部会への説明会は随時開く予定です。(日本農業新聞 2024年2月8日)

農業技術ピックアップ

キャベツ根こぶ病の防除

三重県版AIモデルの開発

土壌病害であるキャベツ根こぶ病の防除には、定植前の予防対策が必要です。そのため、三重県では圃場の発病ポテンシャル(発病のしやすさ)を推定し、適切な予防対策を選択する土壌病害管理手法「ヘソディム(HeSoDiM)」を指導しています。そこで三重県農業研究所では、誰でも手軽にキャベツ根こぶ病の発病ポテンシャルを圃場ごとに診断できる三重県版AIモデルを用いてキャベツ根こぶ病の適

切な予防対策を行うことにより、管理コストの削減のほか、過剰な農薬使用による環境への負荷を減らすことができます。

同モデルは診断したい圃場の土壌菌密度や土壌pHなど7項目を入力すると、キャベツ根こぶ病の発病ポテンシャルをレベル1～3の3段階で示します。また、防除対策は発病ポテンシャルのレベルに応じて、「増収化」や「高付加価値化」、「持続的な栽培」などの生産者が優先したいケース別に選択することができます。

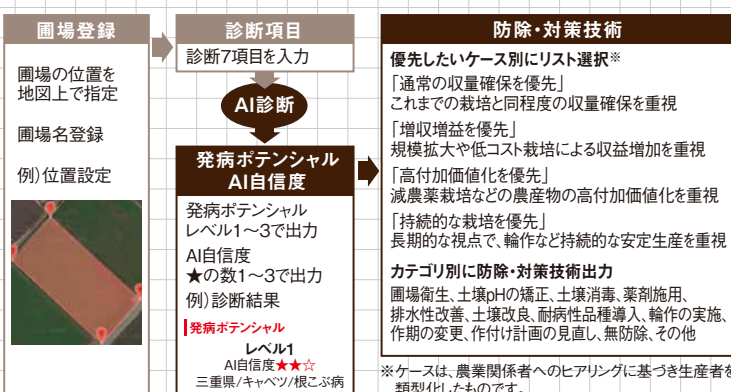


図1 キャベツ根こぶ病の発病ポテンシャルを推定する三重県版AIモデルの診断手順

同モデルによる圃場の発病ポテンシャルの診断精度は96%と、これまでのマニュアルによる診断手法よりも精度が高くなりました。同モデルはWebアプリ「HeSO+ (ヘソプラス)」で利用できます。

お問い合わせ先

基盤技術研究室
農産物安全安心研究課
☎0598-42-6360
中央農業改良普及センター
☎0598-42-6323

▼このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

農業を応援!

農業近代化資金

規模拡大・農業経営改善等にご利用いただける制度資金です。



農機具取得



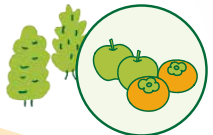
農舎等建構築物取得



家畜購入



家畜育成費用



果樹等植栽育成費用



長期運転資金

JAバンク利子補給制度等により、お借入れから当初5年間の実質金利がゼロ%になります。

実質金利
年 0%

利子補給
本資金については、三重県、長期金融協会(認定農業者のみ)、各市町、JAバンクより利子補給・助成が実施され、借入当初5年間は年0.00%となります。

- 助成制度はそれぞれ制度内容が異なり、その組み合わせや金利情勢によっては0%にならない場合があります。
- 6年目以降の利率についてはお客様ごと、または借入時期により異なります。
- 店頭にて返済額を試算いたします。
- お申込みの際にはJA所定の審査を行い、その結果によってご希望に添えない場合がございます。
- ご利用中の繰上返済や返済条件の変更については、別途JA所定の事務取扱手数料が必要となる場合があります。
- この内容は令和6年3月1日現在のものです。

詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。

JAバンク 三重

検索

JAバンク
三重県下JA/JA三重信連

